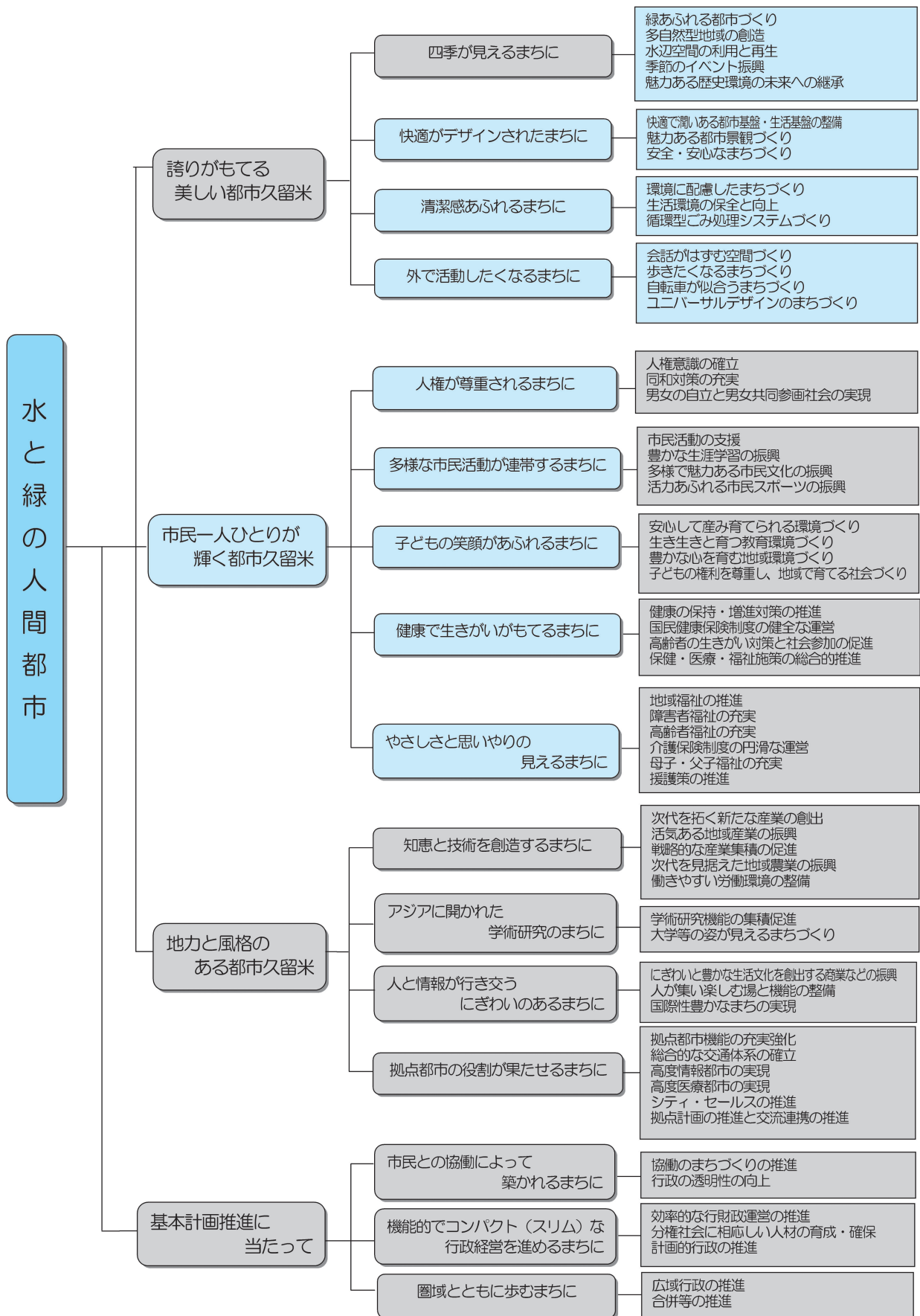


## II 政策編



# ◆久留米市新総合計画第2次基本計画体系図



## 第1節 四季が見えるまちに

### 施策の概要

#### 【施策のねらい】

- ・ 合併によってさらに高まった耳納山系や筑後川等の豊かな自然や田園景観等を、都市の個性・魅力として活かします。また、生活空間に水と緑を取り込み、季節感あふれる彩り豊かで潤いのある都市づくりを進め、「水と緑に抱かれる美しい都市」を目指します。
- ・ 筑後国府跡、古墳群、伝統行事などの歴史的遺産を都市づくりに活かし、将来の子孫に大切に守り伝えていくことを目指します。

#### 【主な取り組みと成果】

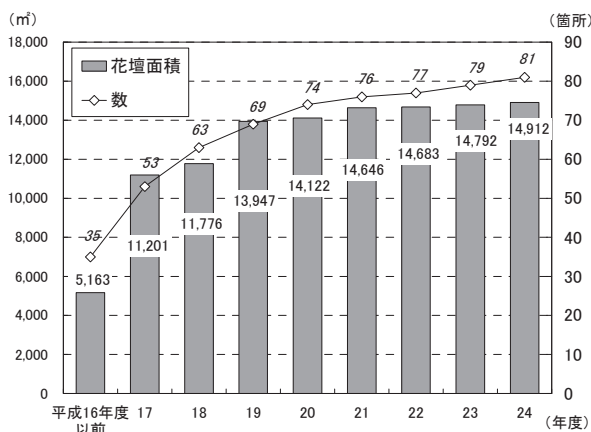
- ・ 耳納北麓の「みどりの里づくり」が進み、観光客が大幅に増加しました。
- ・ 街路樹の統一的な植栽や池町川の緑道整備、「花と緑の名所づくり」等により、花と緑を取り込んだ生活空間づくりが進みました。
- ・ 「花と緑の名所づくり」や「花街道サポーター」、「四季の森ふれあい事業」による森づくりなど、市民との協働による花と緑の創出、保全が進みました。
- ・ 四季のイベントや祭りを振興することにより、交流人口の拡大を図りました。また、市民意識調査の満足度において、高い評価を得ています。
- ・ 坂本繁二郎生家や有馬記念館、田主丸大塚古墳歴史公園等の整備改修を行い、文化財に親しむ機会や場を提供することで、文化財を守り伝える取り組みを進めました。

### 久留米市の現状

#### ○市民との協働による花と緑の創出や森づくりが進んでいる

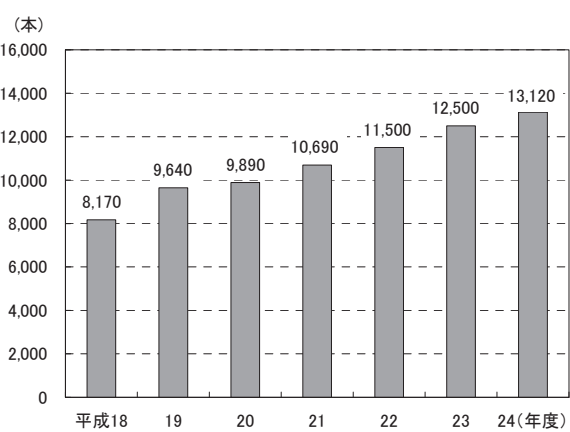
- ・ 「花と緑の名所づくり」や「花街道サポーター」など、市民との協働により、花と緑にあふれるまちづくりが進んでいます。また、市民活動団体による広葉樹の植林など、市民主体の森づくりも進んでいるところです。

▼「花と緑の名所」の数と面積



(資料)久留米市資料

▼四季の森広葉樹植林本数

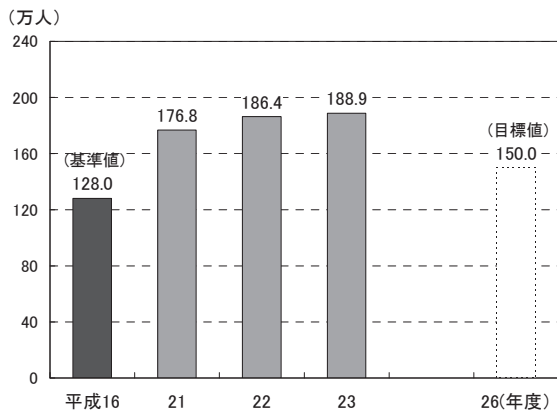


(資料)久留米市資料

#### ○耳納北麓の魅力を活かした「みどりの里づくり」が進んでいる

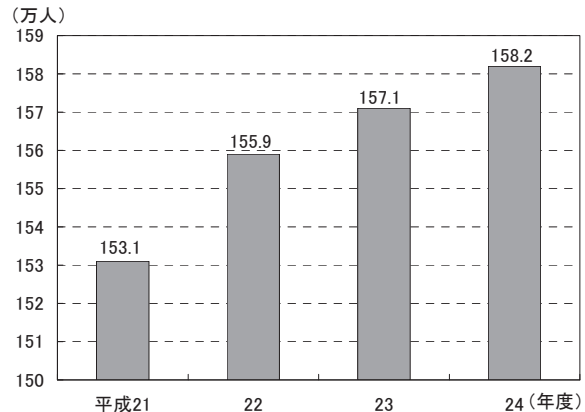
- ・ 耳納北麓の四季折々の自然や歴史・文化等を活かした「みどりの里づくり」が進み、「道の駅くるめ」や「久留米つばき園」をはじめ、地域と連携した様々なイベントやフルーツ狩り等に多くの観光客が訪れています。
- ・ 平成24年には、魅力ある景観や地域の取り組みが評価され、「みどりの里・耳納風景街道」として日本風景街道の登録を受けました。
- ・ 平成26年3月に、耳納北麓の新たな拠点施設として「(仮称)世界のつばき館」が開館予定です。

### ▼耳納北麓への観光客の推移



(資料) 久留米市資料

### ▼道の駅くるめへの来訪者数



(資料) 久留米市資料

### ▼「みどりの里・耳納風景街道」に登録されたエリアにある地域資源



(資料) 国土交通省九州地方整備局

### ○九州一の大河「筑後川」を活かした水辺空間の利用

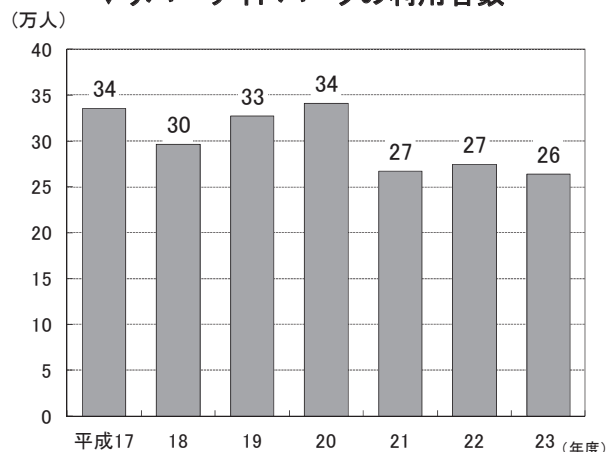
- 筑後川には、リバーサイドパークや百年公園、サイクリングロードなどが整備され、市民の憩いの場として利用されています。また、筑後川の広い河川敷を利用し、花火大会やマラソン大会など多彩なイベントも数多く開催されています。

### ▼リバーサイドパークの施設一覧

地区名	施設名
東櫛原地区	ソフトボール場 5面
東櫛原地区	多目的広場(主な利用はサッカー) 2面
	グランドゴルフ場(公式) 3面
	多目的広場(芝生) 1面
	舗装広場 2面
新宝満川地区	野球場 2面
	テニスコート 8面
筑後大堰下流広場	多目的広場(主な利用はサッカー) 5面
筑後川大堰上流広場	多目的広場(主な利用はソフトボール) 2面
長門石地区	ゴルフ場 9ホール
その他	その他の施設

(資料) 久留米市資料

### ▼リバーサイドパークの利用者数



(資料) 久留米市資料

## ○多彩なイベントの実施と市内外からの集客

- ・ 四季を通じて、様々なイベントが開催されており、特に、4月の久留米つつじまつり、8月の水の祭典久留米まつり、筑後川花火大会には、市内外から多くの観光客が訪れています。

### ▼季節ごとの主なイベント(平成24年度)

		名称	参加者・来場者数			名称	参加者・来場者数
春	3月	久留米つばきフェア	27,000人	秋	10月	コスモスフェスティバル	61,000人
	4月	久留米つつじまつり	303,000人		農業まつり	46,000人	
		久留米つつじマーチ	17,000人		11月	ふるさとみづま祭	65,000人
		三瀧黒松春まつり	10,000人			田主丸耳納の市	35,000人
夏	8月	水の祭典久留米まつり	506,000人	冬	1月	大善寺玉垂宮の鬼夜	10,000人
		筑後川花火大会	450,000人		2月	城島酒蔵びらき	70,000人

(資料) 久留米市資料

## ○有形から無形まで多様な文化財の保護と活用

- ・ 市内には、建造物、絵画、彫刻、工芸品等の有形文化財から無形民俗文化財まで、国・県・市の指定文化財が179点あり、文化財に親しむための機会や場の提供も進んでいます。

### ▼文化財の保護・活用のための施設への入館・利用者数(24年度)

名称	入館者・利用者数
有馬記念館	28,148人
くるめりあ六ツ門展示コーナー	16,857人
坂本繁二郎生家	7,341人
大塚古墳歴史公園	4,931人
おおはし歴史公園	3,836人
埋蔵文化財センター	1,958人
御塚権現塚史跡の広場	1,331人
文化財収蔵館	262人

(資料) 久留米市資料

### ▼文化財を活用した主な企画展

年度	展示会名	会場	入館者数
20年度	もどってきた昭和のにぎわい	一番街空き店舗、久留米井筒屋ほか	15,790人
21年度	むかしのくらし展	一番街空き店舗、一番街多目的ギャラリー	5,588人
22年度	むかしのくらし展	六ツ門図書館展示コーナー	8,055人
22年度	久留米有馬発見伝 I	有馬記念館	3,005人
23年度	第3回筑後国府展	久留米市役所2階アートスペース 九州歴史資料館(小郡市)	7,057人
23年度	京都相国寺宝物展	有馬記念館	4,431人
24年度	金閣・銀閣の寺宝展	有馬記念館、石橋美術館	59,814人
24年度	むかしのくらし展	六ツ門図書館展示コーナー	6,918人
25年度	からくり儀右衛門展	石橋美術館本館1階ギャラリー	—

(資料) 久留米市資料

## 社会環境の変化

- 地球温暖化の防止やヒートアイランド現象の緩和、生物多様性の保全等の観点から、緑化推進の意義が高まっています。
- 文化財を活かしたまちづくりを進めるための法律が施行され、文化財による地域の特性を活かしたまちづくりが取り組まれています。
- 余暇活動の目的として、「自然に触れること」を3割以上の人が挙げており、「今後の目的」としてあげる人はさらに多くなっています。

### ▼余暇活動の目的における「自然とのふれあい」の今後の高まり

余暇活動の目的	平成9年	平成22年(N=3, 110)			平成24年(N=3, 294)		
	現在の目的	現在の目的	今後の目的	今後－現在	現在の目的	今後の目的	今後－現在
心の安らぎを得ること	59.1	66.9	67.0	0.1	63.5	61.9	▲ 1.6
健康や体力の向上をめざすこと	40.2	48.7	59.9	11.2	53.4	62.0	8.6
家族との交流を楽しむこと	42.8	45.2	50.4	5.2	49.5	53.0	3.5
友人や知人との交流を楽しむこと	57.8	46.2	51.2	5.0	48.3	53.1	4.8
身体を休めること	48.5	52.3	50.8	▲ 1.5	48.1	44.8	▲ 3.3
知識や教養を高めること	25.2	36.7	46.1	9.4	38.9	42.7	3.8
好奇心を満たすこと	11.3	27.6	30.4	2.8	35.8	34.6	▲ 1.2
日常生活の解放感を味わうこと	35.7	38.9	39.2	0.3	34.6	33.2	▲ 1.4
自然に触れること	35.4	35.9	44.9	9.0	33.2	40.4	7.2
自分で作れる喜びを満たすこと	19.8	24.9	28.7	3.8	30.9	31.8	0.9
芸術や美的な関心を満たすこと	16.5	24.5	30.8	6.3	24.4	28.4	4.0
技術や腕前の向上をめざすこと	8.9	14.2	18.1	3.9	21.7	22.2	0.5
仕事や学習に役立つこと	8.7	18.9	20.7	1.8	21.1	21.7	0.6
実益(収入)に結びつくこと	6.0	15.1	25.6	10.5	20.7	26.8	6.1
社会や人のために役立つこと	9.9	11.9	25.7	13.8	20.5	33.2	12.7
創造力を発揮すること	6.0	12.4	16.8	4.4	18.5	21.4	2.9
仕事や学習への新しい意欲を得ること	9.0	14.2	18.9	4.7	17.8	21.1	3.3
ぜいたくな気分にあふれること	9.1	21.4	32.5	11.1	17.5	23.7	6.2
推理、想像を楽しむこと	3.8	8.3	8.8	0.5	15.0	14.5	▲ 0.5
賭けや偶然を楽しむこと	5.6	7.4	6.8	▲ 0.6	9.8	8.3	▲ 1.5
腕を競い競争すること	4.2	3.6	3.8	0.2	6.6	5.7	▲ 0.9
スリルを味わうこと	3.7	4.6	5.0	0.4	6.0	5.3	▲ 0.7

(注)「今後の目的」は調査時点において「今後10年間で余暇活動にどのような楽しみや目的を求めているか」という質問に対する回答。

(資料) (公財)日本生産性本部「レジャー白書2012」

## 今後の課題

### ◇市民との協働による花と緑があふれる都市空間づくり

- 四季を実感できるまちづくりを効果的に実現するためには、市民や事業者の理解と協力のもと、身近な生活空間や多くの人が利用する施設・場所の緑化推進を図ることが必要です。
- 緑化を推進する際には、観光や環境の視点も配慮して取り組むことが必要です。

### ◇雄大な自然、四季折々の風景やイベントを活かした地域活性化

- 地域資源を活かしたまちづくりを進めるには、多様な資源の魅力を高め、地域と連携・協力しながら、訪れる人の増加、地域の活性化、地域産業の振興につなげる必要があります。
- そのためには、情報発信力を高め、誘客や回遊性を向上させるとともに、地域経済への波及効果が高くなるような仕組みづくりも必要です。

### ◇文化財を活かした久留米の魅力づくり

- 文化財を将来にわたって守り伝えていくためには、積極的に文化財を活用し、身近な生活空間やまちづくりの中で活かしていくことが必要です。
- 久留米の魅力づくりとして、文化財を郷土の歴史や人物とともに、観光や教育に取り入れていくことも必要です。

・生物多様性：生きもの達の豊かな個性のつながりのこと。生物多様性条約では、生態系の多様性、種の多様性、遺伝子の多様性の3つの多様性があるとしている。

## 第2節 快適がデザインされたまちに

### ▼施策の概要

#### 【施策のねらい】

- ・ 都市基盤・生活基盤について、新市としての一体性を確保した上で、将来に継承できるような、より質の高い整備を進め、豊かな暮らしの土台を築きます。
- ・ 災害に強い都市づくり、犯罪に強い都市づくりを進め、災害や犯罪を未然に防ぎ、被害を最小限に抑えます。
- ・ 都市景観のあり方を見直し、将来に継承するに足る美しい都市をつくります。
- ・ 土地の有効高度利用により、ゆとりある居住空間の形成を図ります。

#### 【主な取り組みと成果】

- ・ 環状道路や幹線道路、生活道路、下水道などの都市基盤・生活基盤の整備拡大と、上水道やガスなどのライフラインの安定供給に取り組みました。
- ・ 市営住宅は、長寿命化計画に基づき、老朽木造住宅の建替え等を進めました。
- ・ 消防体制の広域化を図るとともに、防災拠点機能や避難機能の強化、地域防災力の向上など防災対策に取り組み、災害に強い地域社会の構築を進めました。
- ・ 河川改修と合わせて、地下貯留施設整備に取り組み、市街地の浸水対策を進めました。
- ・ 交通安全施設の整備や踏切改良、交通安全教室など交通事故防止対策を進めました。
- ・ 防犯まちづくり条例等に基づく総合的な防犯対策の推進や、街頭防犯カメラや防犯灯の設置などに取り込むことで、犯罪認知件数の減少と防犯対策の認知度向上につながりました。
- ・ 「セーフコミュニティ」に取り組み、地域に密着した安全・安心のまちづくりを進めました。
- ・ 景観条例の制定や電線類地中化事業の実施等、魅力ある景観づくりを進めました。

### ▼久留米市の現状

#### ○都市基盤・生活基盤の整備状況

- ・ 道路の舗装率は90%を超えていますが、側溝と歩道の整備率は50%に達しておらず、引き続き、計画的な整備・改修が必要となっています。
- ・ 上水道の普及率は91.9%です。今後も順次、未整備地区の普及拡大を図っています。
- ・ 下水道の人口普及率は72%ですが、農業集落排水施設や合併処理浄化槽を含む生活排水処理の人口普及率は90%を超えています。
- ・ 公共賃貸住宅は約4,700戸あり、中核市の中でも平均以上の水準です。また、老朽木造住宅等の市営住宅の建替えが進み、平成27年には老朽木造の市営住宅を解消する見込みです。

#### ▼市道の側溝の整備状況

総延長 (km)	側溝設置延長 (km)	側溝設置率 (%)
2,315.7	1,034.4	44.7

(資料) 国土交通省「平成22年度道路交通センサス」

#### ▼市内の幹線道路の歩道整備状況

延長(km)	歩道設置延長 (km)	歩道設置率 (%)
336.9	133.8	39.7

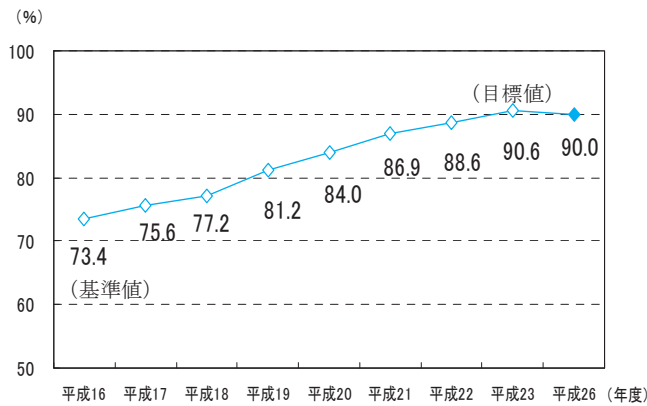
(資料) 国土交通省「平成22年度道路交通センサス」

・セーフコミュニティ：「けがや事故などは、偶然の結果ではなく予防することができる」という理念のもと、地域の実情をデータを用いて客観的に評価し、行政・関係機関・市民・地域の団体、組織などが力をあわせて進める「安心して生活できる安全なまちづくり」の取り組みや取り組みを行う地方公共団体のこと。

・地下貯留施設：降雨による浸水被害を軽減するための施設。水路が一定の水位以上になると、水位以上の雨水を導水管を経由して、地下の貯留管へ流れ込み貯留することができる



### ▼生活排水処理の人口普及率

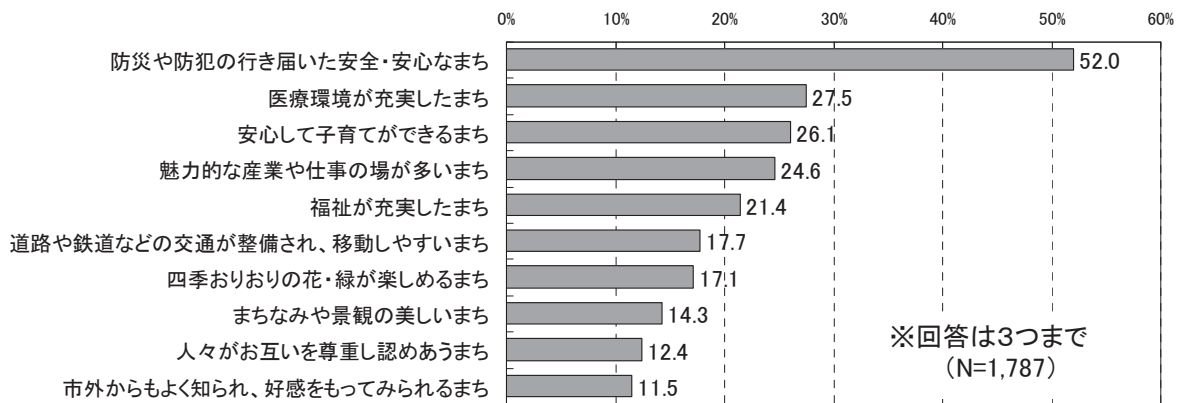


(資料) 久留米市資料

### ○安全・安心なまちに対する市民意識の高まり

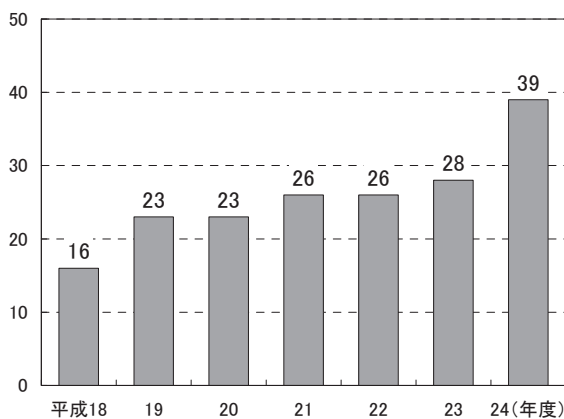
- ・ 市民意識調査の「久留米市の将来のまちの姿」では、「防災や防犯の行き届いた安全・安心なまち」が半数を超え、安全・安心のまちづくりに対する市民ニーズの高さがうかがえます。
- ・ 地域における自主防災組織や防犯活動団体の数は年々増加しており、市民と協働した防犯・防災の体制づくりは順調に進みつつあります。

### ▼久留米市の将来のまちの姿



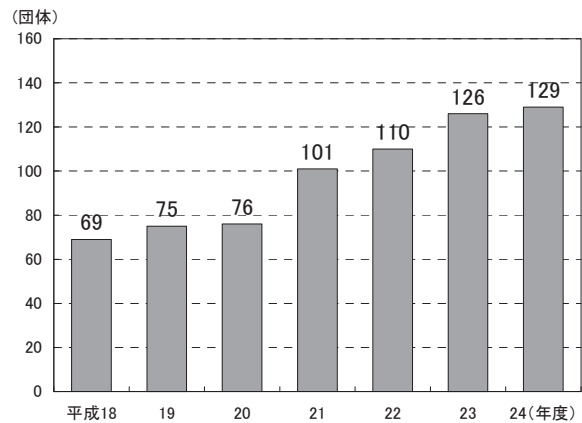
(資料) 平成 24 年度久留米市市民意識調査報告書

### ▼自主防災組織の数



(資料) 久留米市資料

### ▼防犯活動団体の数

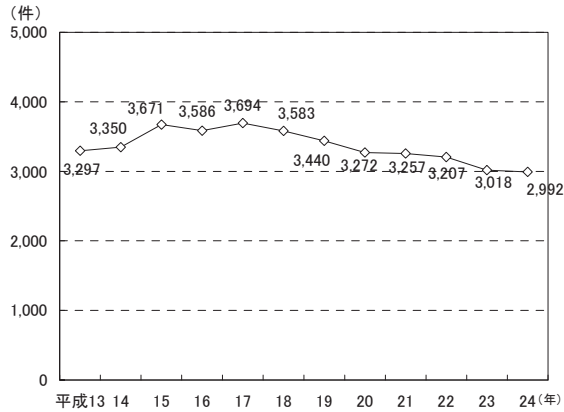


(資料) 久留米市資料

## ○交通事故の発生状況

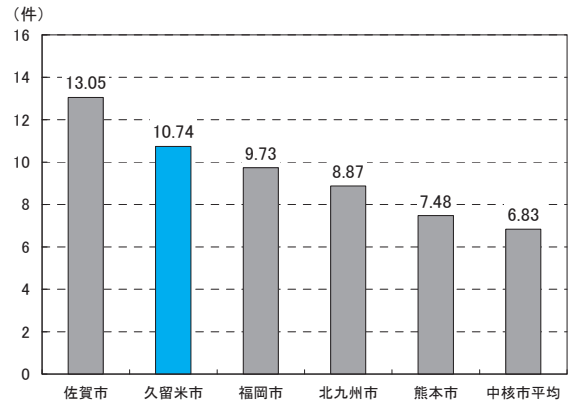
- 交通事故発生件数は、平成17年以降減少傾向にあります。人口当たりの件数を他都市と比較すると、まだ水準は高く、一層の取り組みが求められます。

▼久留米市交通事故発生件数



(資料) 久留米市資料

▼交通事故発生件数(人口千人当たり)

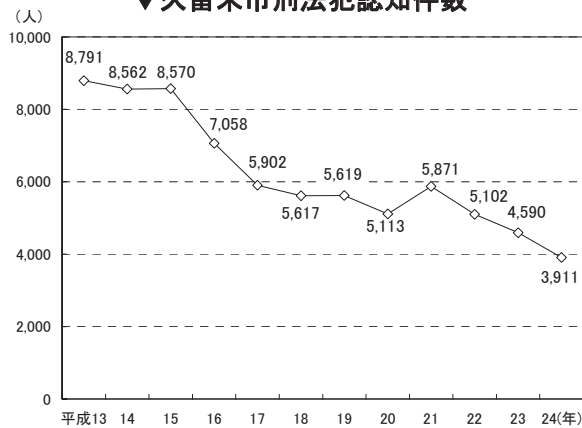


(資料) 警察庁交通局「交通統計」、総務省「住民基本台帳」

## ○犯罪の発生状況

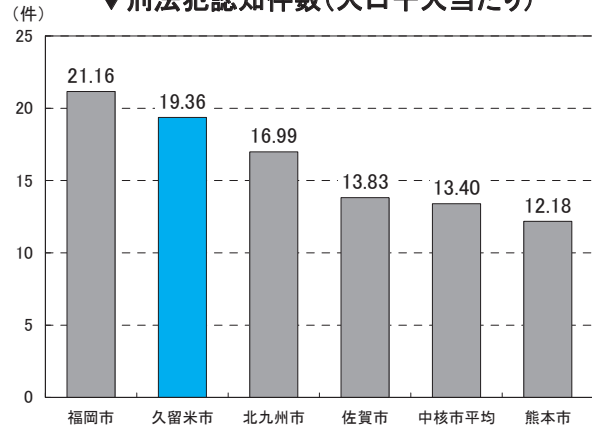
- 刑法犯の認知件数は、平成24年には10年前の5割以下の水準になるなど、近年大きな改善がみられます。人口当たりの件数を他都市と比較すると、まだ高い水準にあります。
- 犯罪では、自転車やオートバイなどを盗む窃盗犯が約8割を占めています。

▼久留米市刑法犯認知件数



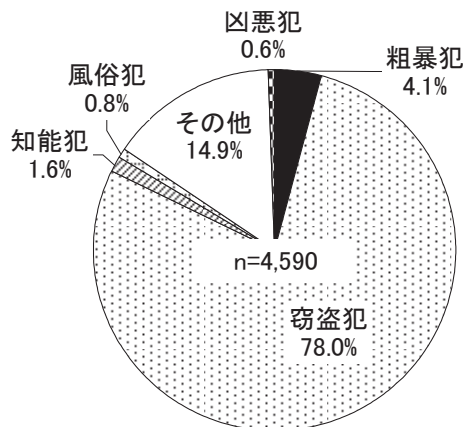
(資料) 久留米市資料

▼刑法犯認知件数(人口千人当たり)



(資料) 警察庁「犯罪統計資料」、総務省「住民基本台帳」

▼刑法犯認知件数の構成割合



(資料) 警察庁「犯罪統計資料 (平成24年1月～12月分)」

## 社会環境の変化

- 全国的に、建設後 50 年以上を経過するインフラの割合が、今後 10 年で道路や排水機場等を中心に、一挙に高まるものと予想されており、計画的なインフラ更新の必要性が高まっています。

### ▼更新が必要となるインフラの比率(全国)

インフラ種別	平成22年度	平成32年度	平成42年度
道路橋 約15万5千橋(橋長15m以上)	8%	26%	53%
排水機場、水門等 約1万施設	23%	37%	60%
下水道管きよ 総延長約43万km	2%	7%	19%
湾岸壁 約5千施設	5%	25%	53%

(資料) 国土交通省「国土交通白書 2012」

- 東日本大震災以降、防災・減災の対策が進む中で、南海トラフ巨大地震やゲリラ豪雨などへの対応も求められています。

## 今後の課題

### ◇安全で快適に暮らせる都市基盤・生活基盤の整備

- 生活道路や市営住宅、上下水道等のライフラインの整備については、安全で快適に暮らすことができるよう、今後も引き続き、整備を進めていく必要があります。
- ライフラインの多くが、今後同時期に老朽化を迎えるため、財政的負担の平準化、最小化を図りながら、計画的に長寿命化や更新を行っていく必要があります。
- 人口減少や少子高齢化の進行による移動手段の変化や空き家の増加など、今後の社会環境の変化を見据えた長期的な視点での整備が必要です。

### ◇みんなで取り組む安全安心のまちづくり

- 市民の防災に対する意識や関心が高い今、自助、共助及び公助の連携と役割分担に基づく総合的な防災体制の充実・強化を図る必要があります。
- 特に、地域実情に応じた防災・減災のための強靱な都市基盤・生活基盤の整備とともに、自主防災組織など、地域コミュニティとの協働による地域防災力の向上が必要です。
- セーフコミュニティ認証取得に向けた取り組みを契機に、行政と地域住民や団体・組織等が力を合わせ、効果的な交通事故対策や防犯対策等を講じ、「安心して生活できる安全なまちづくり」を盛り上げていく必要があります。

### ◇地域の個性や景観スポットを活かした魅力ある景観づくり

- 市民との協働による景観づくりを進めていくためには、美しい街並みや風景を市民に感じてもらえるような景観スポットを積極的に増やし、情報発信していく必要があります。

・自助、共助、公助：自助（自分でできることは自分でやる）、共助（地域住民等の支え合い）、公助（基盤づくり、活動の支援、公的サービスの実施等行政が行うこと）

## 第3節 清潔感あふれるまちに

### ↓施策の概要

#### 【施策のねらい】

- ・ 市民生活や都市活動がもたらす環境への負荷を低減するとともに、資源の循環システムを確立し、都市と自然が共生する循環型の都市づくりを目指します。
- ・ 環境美化活動に対する市民参加の促進や、環境教育、環境啓発などを通じて協働の仕組みづくりに取り組み、地域社会の美しさや環境を守ります。

#### 【主な取り組みと成果】

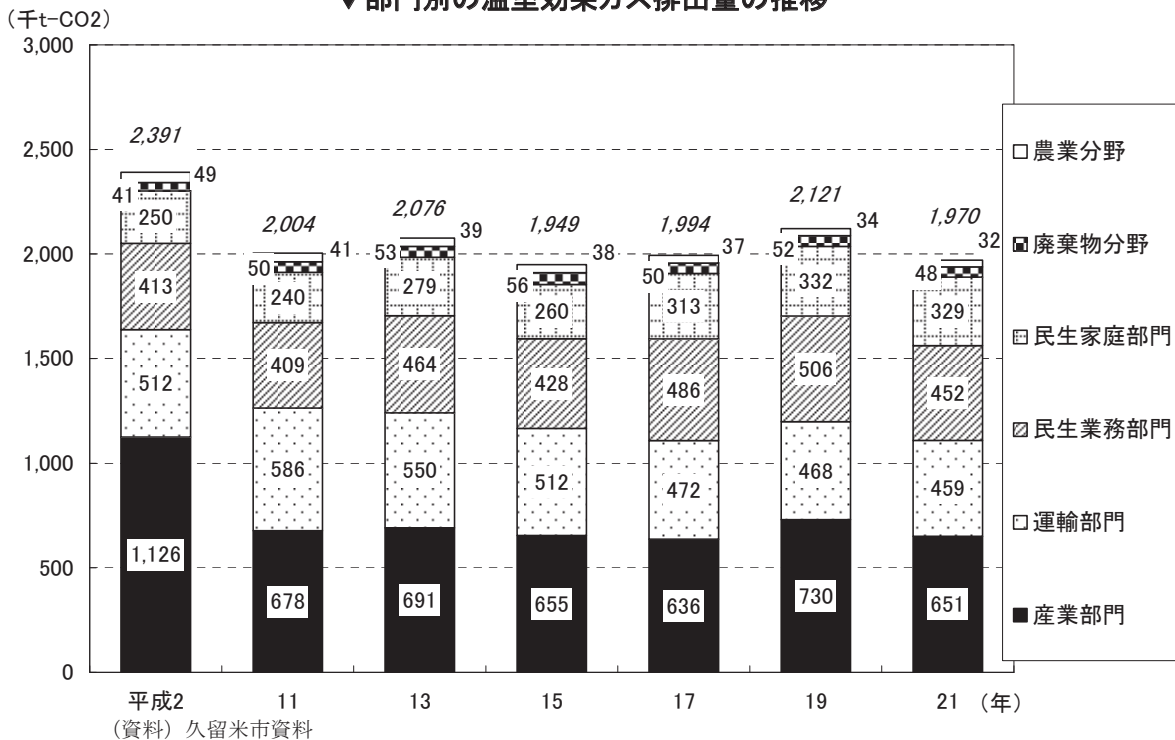
- ・ 環境負荷低減行動推進事業等により、民間住宅や公共施設における再生可能エネルギー等の活用や、様々な省エネ・緑化等の取り組みが進められ、環境に配慮した低炭素型のまちづくりが進みました。
- ・ くるめクリーンパートナー登録者の増加、不法投棄件数減少など環境美化活動が進みました。
- ・ ごみ減量・分別リサイクル推進事業により、ごみの総排出量の減少やリサイクル率の向上など、循環型社会づくりに向けた取り組みが着実に進みました。
- ・ 上津クリーンセンター改修と北部一般廃棄物処理施設の整備、また、杉谷埋立地（第二処分場）の供用開始により、安定的なごみ処理体制が進みました。

### ↓久留米市の現状

#### ○久留米市域の温室効果ガスの排出量

- ・ 久留米市域の温室効果ガス排出量は平成11年度まで減少傾向でしたが、その後はほぼ横ばいとなっています。基準年（平成2年）と比較すると、民生（家庭・業務）部門の排出量が増加しているため、家庭やオフィスにおける省エネ等が排出量の削減に向けて重要になっています。

#### ▼部門別の温室効果ガス排出量の推移

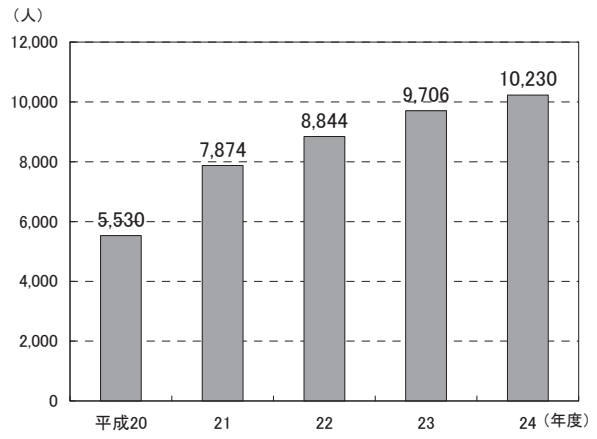


・ くるめクリーンパートナー：公共施設の環境美化ボランティア制度。個人や企業等の活動希望者は、道路、公園、河川などの公共施設の中から活動範囲を決めてくるめクリーンパートナーに登録し、定期的に清掃等の美化活動を行っている。

## ○市民・事業者・行政の協働による環境に配慮するまちづくりの進展

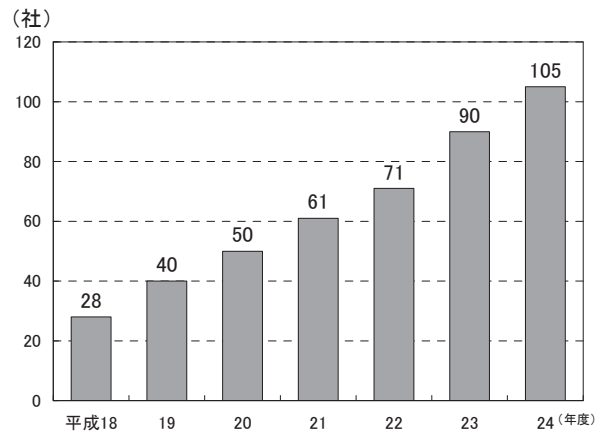
- ・ 「くるめエコパートナー」「くるめクリーンパートナー」の会員数や「環境共生都市づくり協定」の締結事業所数が増加するなど、市民や事業者の環境意識の向上や環境配慮活動の具体的な実践が進んでいます。
- ・ しかし一方では、不法投棄がピーク時より減少したものの、平成24年度では247件発生しているほか、公害苦情受付件数は278件と、過去8年間の中で最も多くなっています。その中でも、特に野焼きの占める割合が大きいなど、市民のマナー向上も課題となっています。

### ▼くるめ・エコパートナー会員数の推移



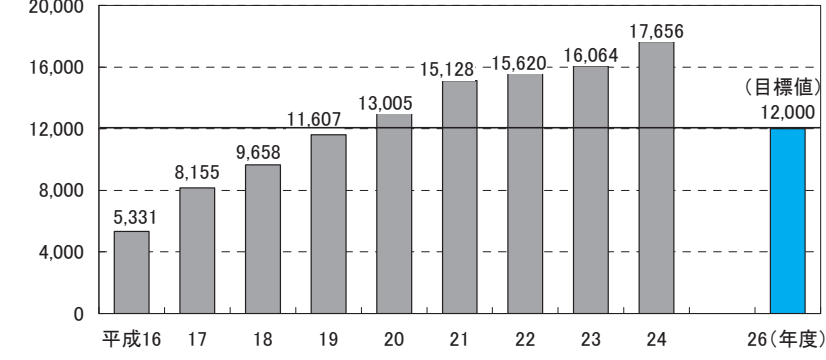
(資料) 久留米市資料

### ▼環境共生都市づくり協定締結事業所数の推移



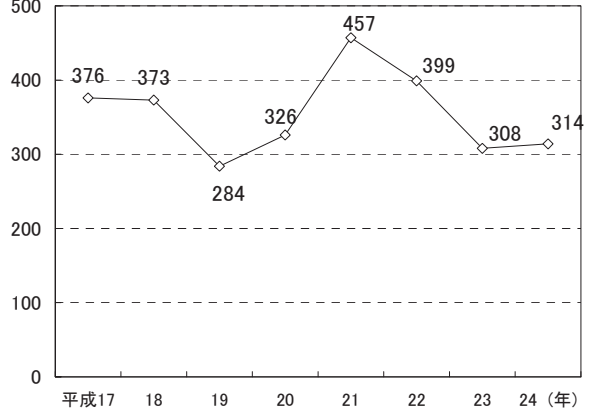
(資料) 久留米市資料

### ▼くるめクリーンパートナー登録者数の推移



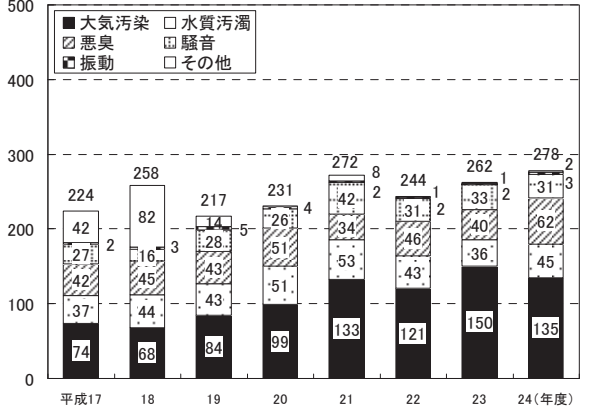
(資料) 久留米市資料

### ▼不法投棄件数の推移



(資料) 久留米市資料

### ▼公害苦情受付件数の推移



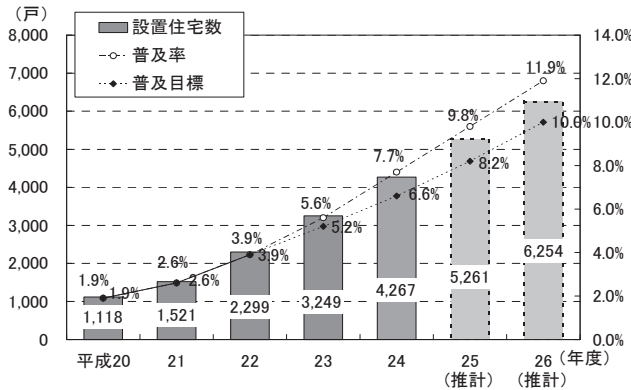
(資料) 久留米市資料

・ くるめエコパートナー：市民・事業者と行政が一緒になって地球温暖化防止活動（エコ活動）への取り組みを進めていく制度。エコ活動に取り組む「市民会員」とその活動を特典提供等で応援する「事業所会員」がある。

## ○太陽光発電の設置実績が増加

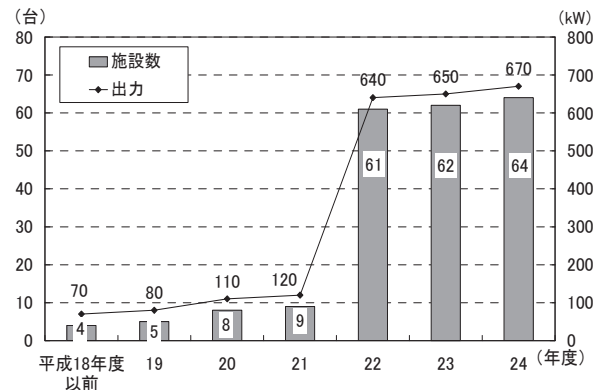
- 市内では、太陽光発電の設置実績が着実に増えていて、今後も増加が見込まれます。

### ▼民間の太陽光発電設置実績



(資料) 久留米市資料

### ▼市の施設における太陽光発電設置実績

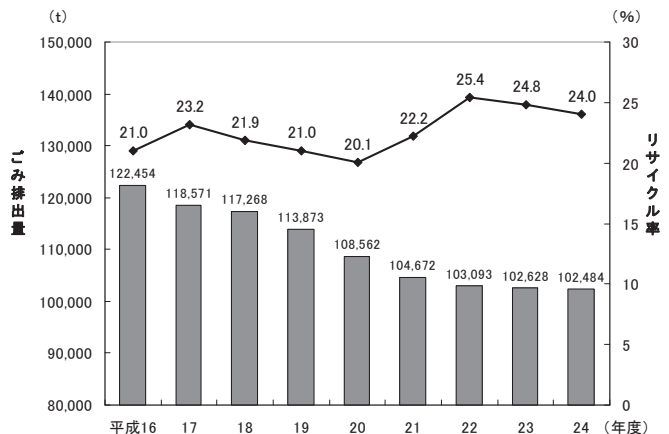


(資料) 久留米市資料

## ○ごみの排出量の減少とリサイクル率の向上

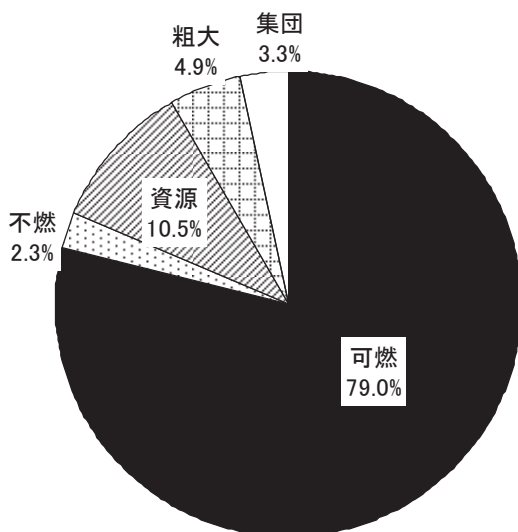
- 市全体におけるごみの総排出量は、年々、減少傾向にあります。紙パックやレアメタルなどのリサイクルも進み、リサイクル率は26年度の目標値(23.0%)を上回っています。
- ごみ排出量の内訳では、可燃ごみが約80%ですが、その組成割合は、再生できない紙・布類が約40%、厨芥類(生ごみ等)が約25%、合成樹脂・ゴム類(プラスチック等)が約20%です。

### ▼ごみの排出量とリサイクル率の推移



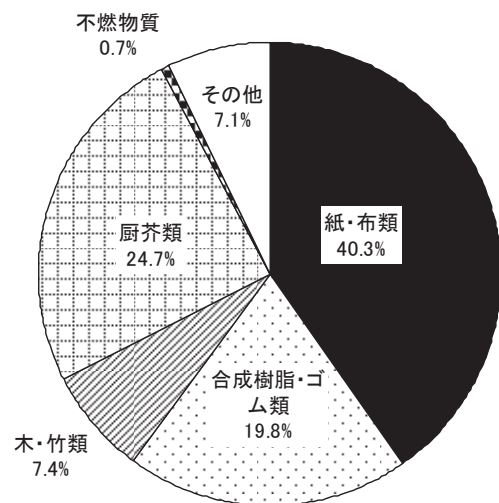
(資料) 久留米市資料

### ▼ごみ排出量の内訳(平成24年度)



(資料) 久留米市資料

### ▼上津クリーンセンターの可燃ごみの組成割合(平成24年度)



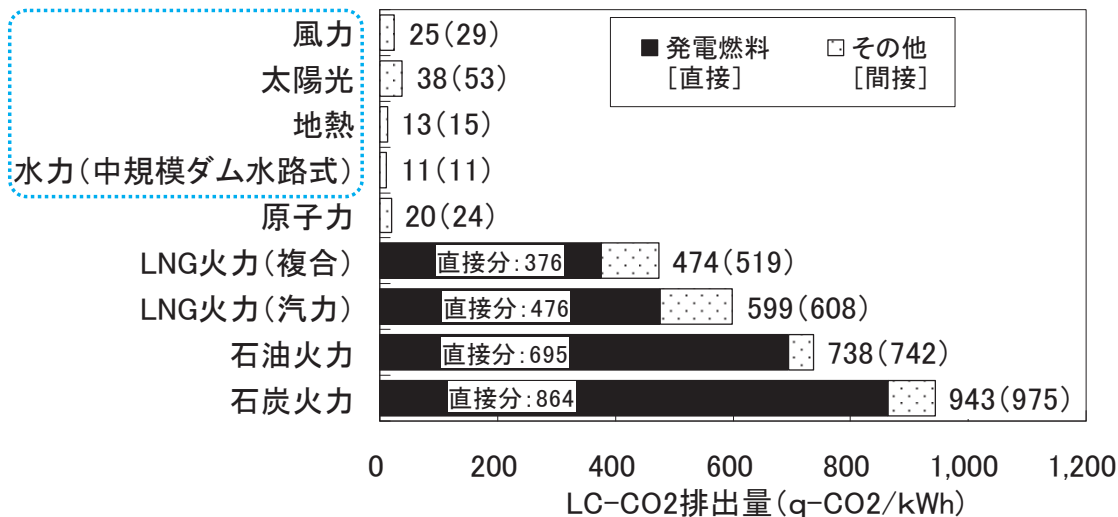
(資料) 久留米市資料

・レアメタル：産業に利用されるケースが多い希少な非鉄金属を指し、構造材料へ添加して特性を向上させたり、また電子材料・磁性材料などの機能性材料などに使用されている。

## 社会環境の変化

- ・ 温室効果ガスの排出量増加や自然環境の悪化など地球環境問題が深刻化する中、地球規模で、低炭素社会・循環型社会への転換が求められています。
- ・ 原発事故の影響や、地球温暖化対策の見地から、再生可能エネルギーの普及拡大が進められています。再生可能エネルギーは、利用時はもちろんのこと、設備の建設・排気等を含めたライフサイクル全体でもCO<sub>2</sub>排出を大幅に抑えることができます。
- ・ 光化学オキシダントやPM<sub>2.5</sub>などの大気汚染による健康被害が懸念されています。

### 発電によるライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の比較



(注) グラフは平成 21 年時点で作られたデータに基づく推計結果、( ) 内は平成 12 年時点での評価結果。  
 (資料) 環境省 低炭素社会づくりのためのエネルギーの低炭素化研究会「低炭素社会づくりのためのエネルギーの低炭素化に向けた提言 (平成 24 年 3 月)」

## 今後の課題

### ◇地域特性を活かした低炭素型社会の構築

- ・ 温室効果ガスの削減をさらに進めるためには、市民・事業者・行政が連携・協力し、再生可能エネルギーの利用や省エネルギー化の促進、緑化推進など、本市の地域特性を活かした低炭素型社会に向けた様々な施策に積極的に取り組んでいく必要があります。

### ◇市民との協働による生活環境の維持向上

- ・ クリーンパートナー等の環境美化活動に、若者にもっと参加してもらうことが課題となっています。
- ・ 不法投棄や野焼きなど、従前からの課題について改善していく必要があります。

### ◇循環型社会の構築と安定的なごみ処理体制の確立

- ・ 市民・事業者の理解と協力を求めながら、3R (リデュース、リユース、リサイクル) をさらに進め、ごみ排出量の削減について一層努力する必要があります。
- ・ 久留米市内で発生したごみの市域内処理を実現し、安定的なごみ処理体制を確立するために、北部一般廃棄物処理施設の整備を着実に進めていく必要があります。

・ PM<sub>2.5</sub>: 微小粒子状物質。大気中に浮遊している 2.5 $\mu$ m (1 $\mu$ m は 1mm の千分の 1) 以下の小さな粒子のことで、従来から環境基準を定めて対策を進めてきた浮遊粒子状物質よりもさらに小さな粒子のこと。  
 ・ ライフサイクルCO<sub>2</sub>: 建設から供用、解体までの期間を通して排出する炭素量を合計した数値のこと。  
 ・ 3R: Reduce (抑制)、Reuse (再使用) Recycle (再生利用) とごみ減量のための 3 つのキーワードの頭文字で、資源の有効利用、環境保全の施策の基本となっている。

## 第4節 外で活動したくなるまちに

### ↓施策の概要

#### 【施策のねらい】

- ・ 生き生きとした暮らしを実感し、地域社会の活性化を促進するために、豊かな自然とふれあい、人々が互いにふれあう生の体験ができる環境づくりを目指します。
- ・ 高齢者や障害者をはじめとするすべての市民が自立した生活を送るために、市民のだれしもが外で自由に活動できる都市基盤づくりを目指します。

#### 【主な取り組みと成果】

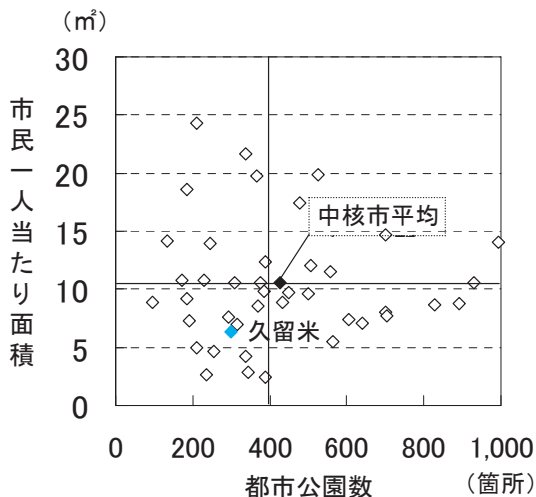
- ・ 都市基幹公園等の整備が進み、スポーツ・レクリエーションの場、市民の憩いの場が増えました。
- ・ 交通量の多い道路における歩道の改修や、学校周辺の通学路のカラー舗装など、安全な歩行空間の整備が進みました。
- ・ 市営駐輪場の整備や自歩道の整備、レンタサイクルの貸出しなどにより、通勤・通学する人も観光客も自転車に乗りやすい環境が整備されました。
- ・ 西鉄久留米駅前のモデル地区を中心に、民間施設や道路のバリアフリー化を進めました。

### ↓久留米市の現状

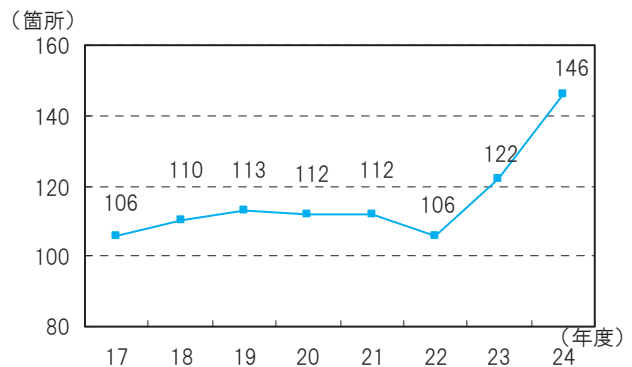
#### ○公園の整備状況

- ・ 市内には、公園が 358 か所、児童遊園等が 193 か所ありますが、都市公園数と市民一人当たり公園面積を他市と比較すると、中核市の平均を下回っています。
- ・ 公園の維持管理は、地域住民との協働による管理（アダプト管理）が進んでいます。

#### ▼都市公園数及び市民一人当たり面積



#### ▼アダプトプログラムにより管理される公園の数



アダプトプログラム：一定区画の公共の場所を養子にみため、市民が里親になって養子の美化(清掃)を行い、行政がこれを支援する、市民・事業者と行政が協働で進める「まち美化プロジェクト」のことをいう。アダプト(ADOPT)とは英語で「〇〇を養子にする」の意味。

(資料) 久留米市資料

#### ○幹線道路の歩道設置状況

- ・ 久留米市内では、幹線道路のおよそ 6 割に歩道が設置されておらず、その区間は 190 キロメートルにも上ります。中心部を通る幹線道路については、歩道設置率が 50%を超える区間が多く、一定の整備が進んでいますが、地域生活拠点の周辺では、50%を下回る区間も多く存在します。

#### ○歩きたくなる道の整備

- ・ 耳納北麓や田主丸の山苞の道、また、JR久留米駅西口周辺では、歩きながら景観や自然、歴史・文化などを楽しめるように、歩きたくなる道の整備が進んでいます。



## ○快適な自転車利用環境の整備

- 平成 17 年から 24 年の間に、主要駅前を中心に 2,149 台分の駐輪場を整備しました。また、駐輪場の 3 時間無料化の試行や街頭指導などによって、放置自転車の撤去台数は減少傾向にあります。
- 観光案内所や百年公園、山辺道文化館など市内 6 か所で、レンタサイクルを貸出し、観光やビジネス等に利用されています。

### ▼駐輪場の整備状況

場 所	自転車 台数	供用開始
試験場前駅	355台	平成17. 4
花畑駅	623台	平成18. 1
西鉄久留米駅 高架下	276台	平成18. 4
善導寺バス停前	65台	平成19. 3
三瀨駅西	83台	平成19. 4
久留米高校前駅	100台	平成21. 3
J R 久留米駅東口 フリースペース	35台	平成21. 10
田主丸中央バス停	60台	平成22. 3
大善寺駅東	120台	平成22. 11
J R 久留米駅西口	144台	平成23. 3
J R 田主丸駅（駐輪スペース増）	90台	平成24. 10
花畑駅（駐輪スペース増）	30台	平成24. 4
花畑駅南	168台	平成24. 4
	2,149台	

(資料) 久留米市資料

### ▼放置自転車の撤去の状況



(注) 平成 23 年度以降、実施回数が増加  
(資料) 久留米市資料

## ○自転車による交通事故発生状況

- 自転車事故発生件数は、平成 17 年に 695 件に達した後、減少傾向にあります。また、対全事故比率は、平成 21 年まで増加が続いていましたが、その後は減少傾向にあります。

### ▼自転車による交通事故発生件数の推移

区分 年別	発生件数				死者数			
	久留米市	福岡県	対全事故比率		久留米市	福岡県	対全死者比率	
			久留米市	福岡県			久留米市	福岡県
10年	470	7,869	15.4%	15.9%	5	38	27.8%	10.8%
11年	518	8,035	16.2%	15.8%	3	28	17.6%	9.0%
12年	558	8,554	16.9%	16.5%	4	33	16.0%	10.7%
13年	538	7,804	16.1%	15.8%	4	33	22.2%	9.9%
14年	549	8,222	15.0%	16.7%	2	31	11.1%	9.6%
15年	596	8,703	16.6%	16.9%	3	46	20.0%	14.7%
16年	686	9,002	18.6%	17.6%	4	28	26.7%	10.2%
17年	695	8,946	19.4%	17.3%	2	29	12.5%	11.6%
18年	643	8,533	18.7%	16.8%	3	31	23.1%	12.9%
19年	657	7,882	20.1%	17.2%	1	24	8.3%	12.1%
20年	659	7,806	20.2%	17.6%	1	32	9.1%	16.2%
21年	624	7,977	20.3%	18.0%	0	32	0.0%	16.4%
22年	570	7,671	17.8%	17.3%	1	16	12.5%	9.4%
23年	522	7,439	17.3%	17.2%	1	24	9.1%	15.3%
24年	495	7,088	16.5%	16.4%	2	18	33.3%	11.2%

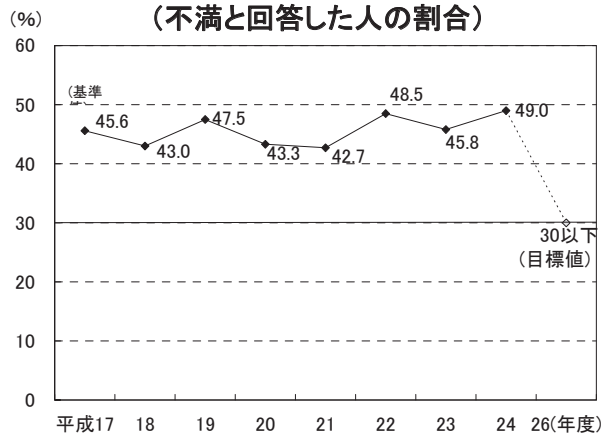
(注) 発生件数は自転車（駆動補助機付自転車を含む）が第 1 当事者又は第 2 当事者になった事故件数であり、死傷者数は第 3 当事者以下を含む自転車乗用中すべての死傷者数である。

(資料) 久留米市資料

## ○バリアフリー化の状況

- 公共施設や商業施設等の自動開閉式扉や多機能トイレの設置など、また、西鉄久留米駅周辺の歩道の段差解消など、徐々にバリアフリー化が進んでいます。
- しかし、市民意識調査によると、回答者の89%がバリアフリー化対策を重要と回答し、また、49%が不満と回答しているなど、バリアフリー化対策は行政ニーズが高い状況です。

## ▼ バリアフリー化対策の満足度 (不満と回答した人の割合)

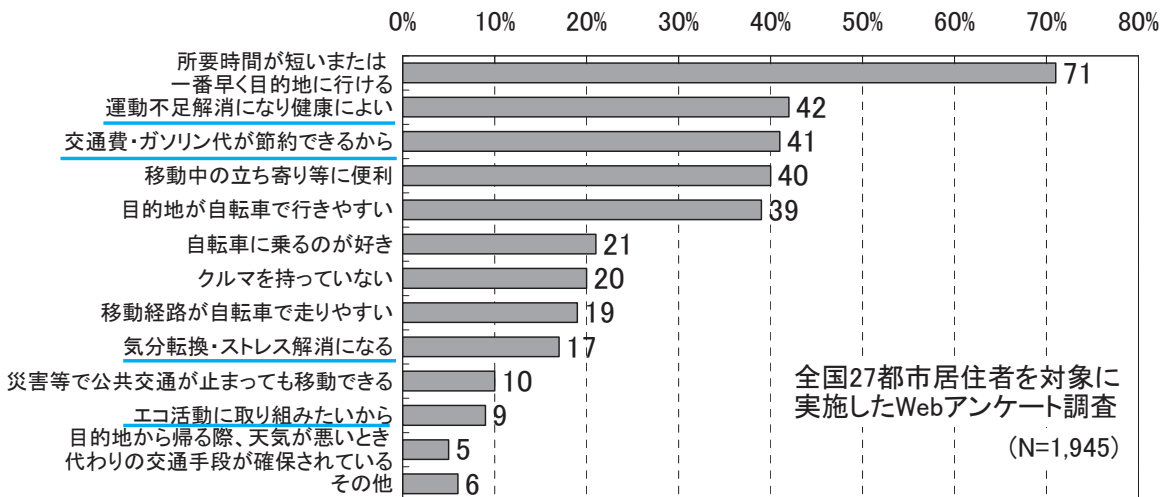


(資料) 久留米市資料

## ▼社会環境の変化

- 自転車は、経済的かつ健康的で環境に優しい移動手段として、利用ニーズが高まっています。

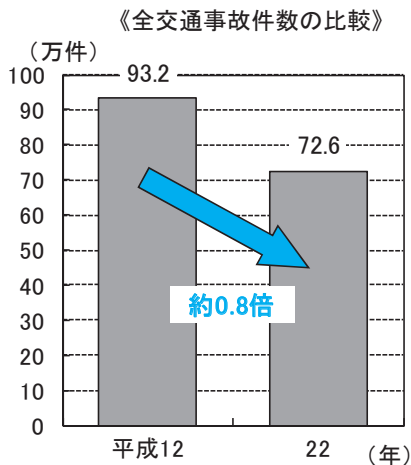
### ▼自転車に乗る理由



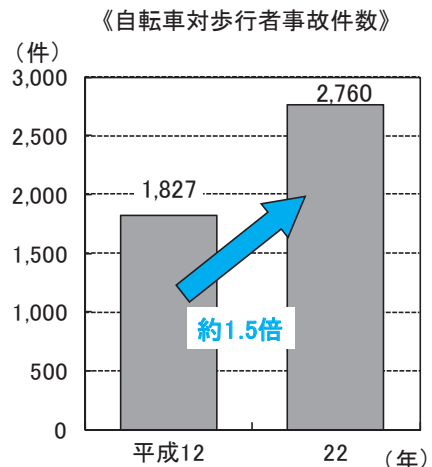
(資料) 国土交通省資料

- 全国の交通事故件数は減少傾向にありますが、自転車対歩行者の事故件数は、平成12年(2000年)と平成22年(2010年)を比較すると約1.5倍に増加しています。

### ▼全交通事故件数の比較・自転車対歩行者事故件数



(資料) 国土交通省資料



## ◆今後の課題

### ◇社会環境の変化を踏まえた公園整備の促進

- ・ 公園整備は、他市と比較しても遅れており、既存の公園の老朽化対策も含めた整備の促進が必要です。
- ・ 住区公園や児童公園等は、変化する利用者や管理者のニーズを把握し、快適で利用しやすく、安全に管理しやすい公園の整備を行う必要があります。

### ◇自転車を利用しやすい環境づくりの促進

- ・ 本市の地域特性と、近年の自転車利用のニーズを踏まえ、市民も久留米を訪れる人も、自転車を利用しやすい環境づくりを、今後一層進めることが必要です。

### ◇ユニバーサルデザインに配慮したまちづくり

- ・ 高齢化や国際化の急速な進展に備え、ハード・ソフトの両面において、ユニバーサルデザインに配慮した、生活環境や移動環境の整備などを着実に進めていく必要があります。

---

・ユニバーサルデザイン：高齢者や障害者、妊婦、子どもなどできる限りすべての人に利用可能であるように、製品、建物、空間をデザインすること。